



央州寺通信 新年号

菅原祐軌 ysbiportland06012017@oregonbuddhisttemple.com



「仏になるってどんなこと?」

「安楽浄土にいたるひと 五濁悪世にかへりては 釈迦牟尼仏のごとくにて 利益衆生はきはもなし」

(現代語訳) 浄土往生して弥陀と同じさとりを開いた人は、還相の菩薩として、五濁悪世といわれるこの迷いの世界に帰って来て、釈尊が自由自在に衆生を教化されたように、衆生に利益を与えられること窮まりがない。(黒田覚忍(2009):『聖典セミナー 「浄土和讃」』本願寺出版社、p.82)

みなさま、新年あけましておめでとうございます。私が央州寺へと赴任して二回目の新年を無事にお迎えさせていただくことが出来ました。これからも数多くの行事をみなさまと共に楽しんでいくことが出来ればと思っております。これからもよろしくお願ひいたします。

さて、お葬式やご法事の機縁などでよく耳にすることと思いますが、浄土真宗では「往生即成仏」といって、この世の縁が尽きた時にお浄土へと生まれさせていただき、すぐに仏に成らせていただきます。しかし、仏になるとはどんなことなのでしょう。疑問に思われたことのある方もおられるのではないのでしょうか? 仏になるとは「さとりを開くこと」だとも言いますが、これもまたわかりにくいですね。このように説明されても「では、さとりを開くってなんなんだ?」と新しい疑問が頭に浮かぶことでし

よう。そこで、まず「さとり」とは何かを考えてみましょう。

『仏教・インド思想辞典』(早島鏡正監修、春秋社)によりますと、

「さとり」とは根本無分別智こんぽんむべつぶんちを獲得することだとあります。日常生活で「分別」というと良い意味で使われますが、仏教ではそうではありません。根本無分別智とは私とあなた、あれとこれ、などという分別(区別)のない智慧のことです。この智慧を獲得した方を仏さまと呼びます。それに比べて私たちの知恵は私とあなた、あれとこれを比較して、優越感に浸り、または劣等感に陥る凡夫の知恵です。

たとえば『仏説無量寿経』の中に法蔵菩薩の四十八願が説かれています。その中の第四願にはこうあります。

「わたしが仏になるとき、わたしの国の天人や人々の姿かたちがまちまちで、美醜があるようなら、わたしは決してさとりをひらきません。」(『浄土真宗聖典 浄土三部経 現代語版』本願寺出版社、p.26)

私たちの知恵は「あの人はキレイだ」といってキヤーカー騒ぎ、「あの人は醜い」といって見向きもしないような知恵ですが、仏さまの智慧は違います。美しいから醜いからなどという自分の都合は一切挟むことなく、全てのいのちが等しく尊いものだと見ておられるのが仏さまです。この仏さまの智慧で物事を見ると三つのことに気づきます。

1. あたりまえだと思っていたものが実はあたりまえではなかった
(諸行無常)

2. 多くのいのちに支えられてここにあるいのち (諸法無我)

3. さとりの境地は平等で平和な境地 (涅槃寂靜)

これは「三法印」と言って遠く釈迦牟尼仏(釈尊)が説かれた教えであります。基本的には仏教のどの宗派もこの三法印の教えを説くわけですが、どのように「さとり」へと至るのか、という点で相違点があります。るか、という点で相違点があります。私達浄土真宗では、阿弥陀如来さまのご本願の働きによってさとりの世界であるお浄土へと至り、仏となられた方々すべてが私たち五濁の世に住む者達に教えてくださっていることでもあります。

まだ春には早いですが、春になると木々には新緑の美しい葉が育ちます。その新緑も秋には紅葉となり、そして地面へと落ちて行きますが、地面に落ちることが終わりかというところではありませぬ。地面へと落ちた葉は木々の栄養となり、次の葉の育つ原因となります。私達に先立ってお浄土へと生まれていかれた私達の家族や友人も同じことだと私は味わっております。確かに亡くなった人を物理的に見ることは不可能ですが、教えてくれた事や思い出は記憶として私達の中に残り、それらを思い出す度に三法印の1と2について考えさせられます。

また、浄土真宗の正依の經典である「浄土三部經」(『仏説無量壽經』『仏説阿彌陀經』『仏説觀無量壽經』)にはお浄土というさとりの世界が平穩な境地であることが示されています。そのような境地に生まれ、私達を導いてくださっているのが私達の亡くなった家族や友人であります。お釈迦様が生涯をかけて多くの方々をこの三法印の真実に導かれたように、私達のなくなった家族や友人は無分別に、選りすぐりすることなく平等に私達を導いてく

ださるので「釈迦牟尼仏のごとくにて」と親鸞聖人は示されておられ、それゆえに私達は亡くなった方々を「仏となった」と味あわせていただいているのです。

合掌

文責・菅原祐軌
中央寺駐在開教使

〈二月の予定〉

一月二〇日…十時より朝のお勤め ベースによる音楽の日

一月二七日…十時より朝のお勤め

〈二月の予定〉

二月三日…十時より朝のお勤め

二月十日…十時より朝のお勤め 日本語法話

二月十七日…十時より朝のお勤め

二月二七日…十時より朝のお勤め

皆様お誘いあわせの上お参りください。

